

令和7年度病害虫発生予察情報 発生予報第7号(8月)

令和7年8月6日

発表：福島県病害虫防除所

注意が必要な病害虫

水稲	■ 斑点米カメムシ類（令和7年7月16日付け注意報2号参考）-①
大豆	■ 吸実性カメムシ類 -②

注) ①現状で、注意報レベルの防除を要すると判断された病害虫

②予察調査の結果、発生時期が「やや早い」、発生量が「やや多い」と予測された病害虫の中で、発生量や時期などが特に懸念されるもの。

③下記2（主な病害虫の発生予報）の項目に入らないが、調査の結果、県全域的に発生が多く、問題になると判断した病害虫

1 主な病害虫の発生予報

(1) 普通作物

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
水 稲	いもち病 (穂いもち)	全 域	やや早い	やや少ない	農業総合センター水稲作柄解析試験の結果から、本年の出穂期はやや早いと予想される。 7月下旬の巡回調査では、葉いもちの発生ほ場割合は平年よりやや低かった（－）が、上位葉で病斑が見られたほ場があった。	散布剤は穂ばらみ末期と穂揃期に施用する。 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、同一系統の薬剤の連用はさける。 上位葉に葉いもちの病斑が認められる場合、早急に散布剤による防除を行う。
	紋枯病	全 域	やや早い	やや多い	本年の出穂期は、やや早いと予想される。 7月下旬の発生ほ場割合は平年よりやや多く（＋）、浜通りで特に発生が見られた。 天候予報（仙台区気象台7月31日発表）によると、向こう1か月の気温は高いと予想されている（＋）。	散布剤は穂ばらみ期～穂揃期に施用する。 気温が高いと上位葉鞘への伸展が進む。特に前年に発生が多かったほ場では注意する。 発生ほ場においては、窒素肥料の追肥は避ける。
	斑点米カメムシ類	全 域	やや早い	多い	本年の出穂期は、やや早いと予想される。 7月下旬の畦畔および本田での発生地点割合は、平年よりやや高かった（＋）。 天候予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されている（＋）。	割れ籾の発生しやすい品種では、カスミカメムシ類による被害が助長されやすいため注意する。 詳細については令和7年7月11日付け防除対策、令和7年7月16日付け注意報を参照する。
大 豆	紫斑病	全 域	－	平年並	天候予報によると、向こう1か月の降水量は平年並と予想される（±）。	開花後 20～40 日頃に薬剤を1～2回散布する。その際、薬剤が莢に十分付着するようにする。

大 豆	べと病	全 域	－	平年並	7月の巡回調査での発生ほ場割合は、平年並であった（±）が、発生が多いほ場が見られた。	発生が多く見られるほ場では、薬剤散布を行う。
	吸実性 カメムシ類	全 域	－	やや多い	7月の巡回調査での発生ほ場割合は、平年並であった（±）。 天候予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想されている（+）。	発生がみられる場合は着莢期（8月中下旬）～子実肥大期（9月上～下旬）に薬剤散布を実施する。

注）予報の根拠の中で（+）は多発要因、（－）は少発要因、（±）は平年並要因であることを示す。



病虫害防除所の
HP はこちらから



防除対策のページ
はこちらから